

# SMC金融・経済マーケットレポート

Reporter Your Financial Brain SMC 豊島 健治

## 調べ比べて見てみると (5年物金融商品4態)

先週、新聞を広げていたらある証券会社が一面全てを使って「個人向け5年物利付き国債」の売出し広告を行っていた。「ふーん」と見ていたら、それと2、3頁離れて別の証券会社が同じように一面全部を使って、富士写真フィルムが発行する5年物株式交換社債の売出し広告を載せていた。丁度その時、先週のレポート(高金利型預金)を書いていたので、次週は「5年物金融商品を比較してみよう」と思い立った。

そこで今回は、個人向け利付き国債(固定金利型)、株式交換社債、銀行定期預金、そして先週の特約付き定期預金の4商品を比較し、その長所短所を探ってみたい。

まず、4商品の比較表を下に作ってみた。

	利付国債	交換社債	定期預金	特約定期
期間	5年	5年	5年	5,10年
利率	1.01%	0.1%	0.23%	1.5%
中途換金	2年後可	可	可	不可
元本割れ	無	有	無	無
価格変動	有	有	無	無
利払い	6ヶ月後	6ヶ月後	満期時	満期時
その他	買取制度	株式交換		満期延長

次にそれぞれの特徴を書いてみる。

【利付き国債】...個人向け国債には一般国債と違って2年経過したら元本で買取するという価格変動のある有価証券としては異例の措置がとられている。但し、買い取って貰う場合、それ以前に受け取った4回分の利子(2年分)が差し引かれるペナルティが付いている。だから、丁度2年経った時買い取って貰うと、元本の約2%(=4回分の受取金利)が差し引かれることとなり、2年間無利息で預けたとほぼ同じ事となる。

【株式交換社債】...償還までの5年間、富士写真フィルムの株式に交換できる社債。交換価格は発行前1週間の平均値の28~38%アップした価格(未定)。これから5年の間に株価が大幅に上昇すれば株式に交換し即市場で売却すればキャピタル・ゲインが得られる反面、上昇しなければ0.1%の金利で我慢することになる。格付けの高い優良企業だがデフォルト・リスクは有る。

【定期預金】...改めて説明をする必要のない商品であるが、直近の市場金利上昇を反映し大手銀行が金利を0.23%迄上げた。それでも低いのは否めない。この金利設定を見ると、銀行は鼻から5年物定期預金など集まる筈がないと考えている節がある。ペイオフ対象商品。

【特約付き定期】...先週説明した通り、金利情勢により「満期が10年に延長されても文句が言えない」特約の付いた定期預金。低金利が将来も続けばという商品。ペイオフ対象商品。

さて、今ここに当面使う予定のないまとまった資金があったとしたら貴方はどの商品を買うだろうか。どれかを買わなければならないとしたらどうするだろうか。

こうした判断をする場合、何が重要な材料となるかは投資する人それぞれによって異なる。FPが教える所では、投資利回りだけでなく年齢や家族構成、他の金融資産保有状況等も考慮に入れる必要がある。又、金利や株価に影響を与える長期的な経済予測も判断材料となるだろう。だから次に私が下す判断はあくまで私の判断に過ぎないことを承知して欲しい。

さて、そうして改めて4商品をみると溜息がでる。正直に云えば、どの商品にも買いたい気持ちが湧かない。何故か。多分、「5年という期間」に抵抗があるからだ。幾ら良い利回りでもこの変化の時代に5年間は長すぎる。とすれば、仕方ないから途中でペナルティ無しに換金できる面を重視せざるを得ない。その結果浮かび上がったのが、いつも貶している銀行の定期預金である。

銀行の定期預金は、銀行が予め「期限の利益」を放棄し何時でも解約できるという不思議な商品である。金利を無視すれば使い勝手は悪くない。この超低金利が続く時代も銀行に定期預金を置く人が絶えないのは、案外そんな面が評価されているからかもしれない。

株式交換社債も悪くはないが、成熟企業の交換社債に投資しても楽しくない。この種の商品にはもっと面白い商品があるような気がする。

5年物利付き国債は人気が高く売り切れ状態らしいが、5年という期間を考えると買う気が起らない。やはり1%という金利は低い。又、義務が組み込まれた特約付き定期預金は全く気乗りがしない。皆さんはどう思うだろうか。